



—— 特集 ——

自分らしく生きる

障がいのある人が住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、地域の皆さんが理解を深め、お互いが認め合うことが重要です。

市が実施したアンケートでは、「暮らしやすくするため」に特にしてほしいこと」の回答で、「障がいへの理解」と回答した人の割合が高くなりました。障がいを個性と捉え、尊重することが、理解を深める第一歩となります。

今回の特集では、私たちと障がい者をつなぐ、障がい者芸術の取り組みを紹介します。

固福祉課 TEL 22-6837

近年、障がいのある人がスポーツや芸術、文化などさまざまな分野で活躍しています。

平成30年6月に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が公布されるなど、障がい者の文化芸術活動が注目を集めており、全国的にもさまざまな活動が行われています。

アートは自己表現の手段 大西暢夫さんが講演

市では、障がい者芸術への理解を深める機会として、1月18日に「日本における障がい者芸術について」と題し、写真家・映画監督・作家である大西暢夫さんをお招きして研修会を行いました。

大西さんは、人知れず埋もれている障がい者の作品に注目し、精神科

病棟を中心に取材を続け、障がい者芸術の素晴らしさを国内外へ発信しています。

研修会の中で大西さんは、「障がいのある人はうまく自己表現ができない人もいるが、言葉にできない気持ちを表現する手段の一つがアート。作品には、その人の生き方や今まで生きてきた背景が込められていて、エネルギーがあふれている」と話しました。



講師の大西暢夫さん



「わたしは芸術家」展の様子

障がい者芸術を身近に 市役所で作品展示

1月10日～18日まで、岐阜県障がい者芸術文化支援センターの協力を得て、市役所1階ロビーで、市内の障がいを持った人の作品を展示する「わたしは芸術家」展を開催しました。

日々の生活の中で製作された絵画や紙細工などは、独創的でエネルギーあふれるものばかりでした。展示された作品は、気持ちのおもむくままに作られ、専門的な美術教育を受けていなくても、独自の強い魅力的な作品ばかりでした。

障がい者芸術文化支援センターでは、障がいのある人のアート活動を支援しています。展示会やイベントなども開催していますので、一度足を運んでみませんか。障がいのある人を身近に感じる一步になるかもしれません。

誰もが自分らしく暮らせる まちに

障がいがある人もない人もみんな同じ社会の中で生きています。誰もがいろいろな可能性を秘めています。障がいがあるというだけで偏見の目で見られたり、正しい知識を知らないことで差別を生んでしまったりすることもあります。こうしたことが、障がいのある人の能力や可能性を奪ってしまうこともあるかもしれません。

私たちは、学校や職場、地域社会など、さまざまな場面で障がいのある人と触れ合う機会が多くあります。まずは障がいを身近に感じ、その個性を理解しようとするのが大切です。こうした人が増えることが、障がい者本人や家族の支えにもなり、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりにつながります。

岐阜県障がい者芸術文化支援センター

- ▶場所
ぎふ清流文化プラザ1階
(岐阜市学園町3-42)
- ▶開設時間
8時30分～17時15分
(土・日・祝、年末年始除く)
- ☎Tel.058-233-5377

